第二百卅二號　(一)　明治四十二年十月七日（木曜日）　日刊（日曜及祭日の翌日休刊）　（明治四十一年十二月十五日第三種郵便物認可）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

韓國に於ける訴訟當事者の權能（二）

増本好三郎

顧て韓國に於ける我法衙の現今訴訟手續上に於ける實務の狀態を見るに如上余輩の斷定とは全く正反對の解釋を抱持し殆んど本邦の民事訴訟法と同一の主義方針を採り辯護士の皆無の地は知らず苟も數の多少を問はず辯護士の存在せる地方は親族若くは雇人を除く外此等身分上の關係なき能力者の訴訟代理を絕對に許可せられざるを常例とせり是れ果して立法の精神なりや余輩左に項を分け逐次之を詳論せん

（一）民事訴訟法第六十三條第一項に左の如き規定あり

原告若くは被告自ら訴訟を爲さゞるときは辯護士を以て訴訟代理人とし之を爲す

右は本邦に於ける訴訟代理の原則を規定したる法文にして當事者自ら訴訟を爲さゞるときは辯護士を訴訟代理人とし訴訟を爲すべきを原則とし而して其第二項に於て左の例外の規定を設けられたり

辯護士の在らざる場合に於ては訴訟能力者たる親族若くは雇人を以て訴訟代理人と爲し若し此等の者の在らざるときは他の訴訟能力者を以て訴訟代理人と爲すことを得

是は本邦に於ける一般の裁判所に共通の訴訟手續を規定せるものにして本邦の裁判所に於ては辯護士の在らざる場合に限り訴訟能力者たる親族若くは雇人を以て訴訟代理人とし訴訟を爲すことを得ることゝし第一項に對する除外例を設け而して又第三項に於て

區裁判所に於ては辯護士の在るときと雖も訴訟能力者たる親族若くは雇人を以て訴訟代理人と爲すことを得

と規定し區裁判所の訴訟は上級裁判所の訴訟に比し稍々輕易なるを以て辯護士の在るときと雖も訴訟能力者たる親族若くは雇人を以て常に訴訟代理人と爲すことを認許したり

（二）夫れ然り余輩今試に本邦の民事訴訟法と韓國に於ける裁判事務取扱規則とを比較對照し其規定の異なる點を左に項を分け之を列擧せんに

（イ）本邦に於ては辯護士を以て訴訟代理人と爲すを本則とすれども韓國に於ては之を本則とせず

（ロ）本邦に於ては區裁判所と上級裁判所とを區別し區裁判所に於ては辯護士の在るときと雖も訴訟能力者たる親族若くは雇人を以て訴訟代理人と爲すことを得るとし而して上級裁判所に於ては辯護士の在らざる場合に限り此等の者を以て訴訟代理人と爲すことを得ることゝせるも韓國に於ては辯護士の有無を問はず且つ親族雇人たると將た全然此等身分上の關係なき者たるとを論せず汎く何人と雖も訴訟能力者たるに於ては代理人たることを得ることゝせり

一 叙上余輩の立論にして正鵠を失はざるに於ては韓國に於ける訴訟手續は本邦の訴訟手續と稍々趣を異にし假令辯護士の在るときと雖も訴訟當事者は辯護士以外の一般の訴訟能力者に委任して訴訟行爲を爲すことを得又一般の訴訟能力者は常に他人の訴訟代理人たることを得べき權能ありと云ふを得べし

講談

鎭西八郎

第一席

伯山改　神田松鯉口演

此度京城新報社よりの御依頼に依りまして鎭西八郎爲朝の傳記を申上げます。抑も淸和天皇六代の孫鎭守府將軍源賴義と云ふ御方は、なか〳〵の人物であられまして、朝命を畏みて奥州を征伐致され、前九年の戰後三年の戰に大層御苦勞を遊ばされました、然るに朝廷に於かせられては堂上人の公卿達が、太平の夢に馴れて、戰爭の勞苦を知らず、賴義の大功勞をも格別の事と思はれずして、一切恩賞と云ふものを與へられなかつたので、賴義も已ひを得ず折角獲たる所の敵の首は、盡く之を途中に打棄て、從軍したる關東の武士達へは御自分の私財を以て恩賞を施されたので、關東の豪族は何れも皆悅んで賴義に心服して自ら賴義の家人と稱する程に至り、是れより源氏の勢力は鬱然として勃興致しました、此御方の御子樣が八幡太郎義家朝臣でありまして、此方が又た弓矢の神と後世から稱はれる位の豪傑であられた、義家朝臣の嫡孫六條判官爲義の八男が即ち冠者爲朝、誠に智勇無双にして、身の丈七尺、猿目猿臂といつて、其力は衆人に超へ、能く九石の剛弓を彎き、矢繼早の名人と稱はれて居ります、生れながら左手の肘が右手より四寸伸びて居りました、矢を射るには持て來いと云ふ體格、然れば天成の弓の名人、此左手の肘が四寸伸びて居つた爲めに、其の矢束を引くの强い事夥だしい、幼少の折から見識高く、多勢の兄とは違つて居た、又た惡戲の烈しい事は普通でなく、御父上が叱からうが兄上が懲らさうが、一向に平氣で、萬事自己の隨意に擧動ひ給ふ、近衞天皇の仁和元年に爲朝十三歲となり給ひしが此時既に身の丈七尺に及び、頭髮漆の如く黑く、瞳光烱々として人を射ることは電の如く、擧動鷹揚にして小事に拘泥せず、其形容尋常の壯夫と異つて居りますから、父爲義も後來如何なる事をなすか、我が子ながら誠に勇々しき者と平生から驚嘆して居られました、實に異彩を放つたる所の神童、父爲義の仕込みに依つて、先づ武藝一通りは心得て居られるが學問の方はホンの四書五經の素讀が出來る位であつた然るに或日の事少納言信西が新院の御所へ參られ韓非子と云ふ書物の講義がありまする此新院と申奉るのは先帝即ち崇德天皇の御事でございます永治三年十二月七日崇德帝は御位を退かせられて、御年僅か三歲の太子御位に即け給ふ、是れ即ち近衞天皇と申上げ、鳥羽上皇の御后美福門院樣の生み給ふ所でございます、依つて崇德院を新院と申上げた

爲義朝臣も韓非子の講義を聽聞せんものと參殿の仕度をしながら、不圖爲朝を見返り給ふて

義「オ、八郎、汝は未だ文學の心得淺ければ予の供を致して御殿へ參り、信西殿の講義を承はれよ

爲「御父上、手前も御供致して宜しうございませうか

義「苦しうない、其方は小供の事故、新院の御許しを蒙らずとも、仔細はあるまいと思ふ

爲「左樣でござるか、夫れならば御供仕りませう」

と、衣服を改めて父に從ひ新院御所へ參つて、御廣間の遙か末座に於て聽聞を致しました、丁度韓非子中の第一の名文と云はれて居る、說難篇の講釋でありまして、信西の能辨を以て滔々と說かれまする所に充分に解からぬながらも、爲朝の耳には面白く聽かれました、一体此の少納言藤原道憲入道信西と云ふ人は、山井三位永賴卿八世の後胤、越後守季綱の嫡孫進士藏人實兼の子にして、博學宏才經子に精しく、其の妻が後白河院の御乳母である所から、中々朝廷に勢力がありまする、然し學者に似合はず度量狹少にして、性質が又た剛直に過ぎまするので、兎角に人望がない、此日講義が終つてから、上皇は信西に文武の古實を問はせ給ひて、後弓矢の話に移つた、信西が

信「ソモ射る事はなか〳〵嚴重の法式があり、既に儀禮にも大射禮、鄕射禮と云へる事もあり、先づ已れの姿勢を正しての後にあらずんば、的に當るものではない、唐土にも隨分剛弓の人も候が、本朝にも其人乏しからず、吉備臣、尾越楯人宿禰、此二人などは立派な弓取りにて候」

と答奉つた、新院は

院「今の世には、誰であらうぞ」

との重ねての御尋ね

信「左樣、先づ安藝守平淸盛、兵庫頭源賴政、此兩人にて候」

と答へた、スルと遙か末座でカラ〳〵と笑つた者がある、信西何奴ならんと見まするど、ついに見慣れぬ小冠者だ、

京城新報

經濟界果して回復の徴ある乎

京城日報の報する所に依れば、第一銀行券の發行高近來頗に增加し去る二日發行高は一千百四十六万五千余圓に達せり之れ例年になき最大發行額にて之を前年の九月末平均發行額九百九万千四百圓及四十年の同期千八十八萬百圓に比し巨額の增加を示したるがこは八月末より順潮に增加し來りたるものにて決して一時の變潮にあらず(中略)此趨勢を以てすれば近き將來には千五百萬圓に上る可きを疑はず是れ韓國經濟界好況の反映にして景氣の回復せるものと見るべし昨秋米穫の豐穰なりしに拘らず其出穀比較的稀薄なりしを疑ひしに果然米價の昂騰より近時鎭南浦を始め各地の輸出米穀類饒多にして且從來雜穀として餘り注意を引かざりし小麥が近時滿洲地方に輸出せらるゝの高少なからず爲に地方農民は自然金融潤澤し漸次不景氣を挽回しつゝあるもの〻如し云々と。

依是觀之京城日報子は銀行券發行高の僅に增加せるを以て、韓國の經濟界は順潮に回復しつゝありとするもの〻如し、亦近時米價の昂騰により多少輸出の增加せる爲に地方農民は金融潤澤となり、漸次不景氣を挽回しつゝありと思へるが如し、若し夫れ事實に斯く信ずるならば、そは極めて皮相の想像と云はざる可らず、是れ實際金融市場の實況を知らざると、現在の地方農民が如何なる生活をなしつゝあるかを知らざる座上の空想に過ぎざる也、國民の疲弊絶頂に達して購買力殆ど盡きんとするの狀態にして、經濟界が能く順潮に回復せらるべきか、如何に米穀の輸出が幾分增したりとて多數小作人の窮乏は依然たり、唯幾分金融の餘澤を受るものは少數の地主のみ、多數の小作人は自己に米穀の貯へなし、故に米價の昂騰は却て彼等を苦しむるに至る、如斯なれば地方の韓民は今尙ほ依然として窮乏の淵に沈めり、座上の推斷は往々誤り多し、實際地方多數農民窮迫の狀態を見るに於ては必ずや思ひ半に過るものあらむ、余輩の見を以てすれば銀行券發行高の僅に增加したり迚決して經濟界が順潮に回復しつゝあるものに非ず、亦米穀輸出の聊か增加せる爲に地方農民は金融潤澤漸次不景氣を挽回しつゝあるものと認むる能はず、思ふに何れも是れ一時の現象のみ、之を以て早計にも經濟界回復の曙光抔と報ずるは迂濶の譏を免れざる也。

現時の如く國民疲弊して經濟界の順潮に向ふ筈なし、積年秕政の爲に疲れたる國民の回復は容易ならず、民力の涵養は經濟界發展の第一義也、國民の多數に飢を感じつゝある者ありては到底健全なる經濟界の發展を見る能はず、徒に經濟界の回復、不景氣挽回の徴など〻聲のみ大にするも何の効かあらむ、經濟界の回復發展も、不景氣の挽回も、其根本に培はざれば健全なる現象を見る能はざるべし、是を以て余輩は當局者が根本に向て大に勗められんことを切に希望するもの也。

東京電報

▲**東宮殿下の還啓**　北陸三縣下見學を終らせられたる皇太子殿下には今朝御還啓あり皇族以下奉迎盛也(六日)

▲**日露貨物聯合會議**　は愈々本月下旬より露都にて開催するに決せるが彼我交涉委員は多分前委員任命さるべし

▲**官吏增俸の將來**　政府の官吏增俸案に對しては進步又新及び貴族院の數派は時期尙早なりとし寧ろ地租輕減を先にせんとの意見なるも政友會地方支部等には贊成多數なるを以て衆議院丈は確に通過せん形勢なりと(同上)

▲**內務省の行政整理**　各局の併合は到底不可能なるを以て各局課吏員の淘汰を行ふべき方針にて調査中なりと

▲**露鐵の複線工事**　露國政府は今春來西比利亞復線工事及黑龍江鐵道中部東部線布設に就き調查中なりしが愈結了せるを以て明春解氷を待ち全線に亘る大工事を開始せん(同上)

▲**大演習と諸外國**　今秋の大演習に就ては各列國孰れも注目怠らず既に英佛獨露墺米淸の各國は武官を派遣すべく陸相へ出願し來れり(同上)

▲**露國の西鐵經營**　露國政府は今春來西比利亞鐵道復線工事及黑龍江鐵道の中部東部線を布設する爲め實地踏査として鐵道局長技師ブルツユル氏を派遣したるが某結果該工事は愈々明年春季を以て着手すべしとの報あり(同上)

▲**外務部長の更任**　鍋島外務部長はメキシコ公使に榮轉し後任は小松書記官に內定せり(同上)

▲**藤公の露領旅行**　伊藤公は陛下の御聽許あり次第哈爾賓及浦塩斯德方面へ旅行すべし出發豫定は來る二十日頃なりと(同上)

▲**西澤島解決濟む**　プラタス島問題五日調印濟む西澤氏の賠償金は十三萬圓なり(同上)

▲**永瀧總領事發期**　間島總領事永瀧久吉氏は十二日出發間島へ赴任の筈(同)

▲**局子街ご副領事**　吉岡彥一氏は間島局子街副領事に確定せり(同上)

▲**理事主務省訪問**　東京米穀取引所理事は仲買八十名の除名處分を迫る爲め本日主務省を訪問せり(同上)

▲**最近金貨輸出額**　最近橫濱神戸より香港へ十五萬圓上海へ廿五萬圓の金貨を輸出したり(同上)

▲**首相の關西視察**　桂首相は十一月中政務の餘暇を以て伊勢參宮を爲し次で大阪造幣局の視察を爲さん希望あるも豫算及其他政務の都合にて期日は未定也と

▲**囚徒の島嶼隔離**　島嶼多き我が國にては監獄分房制より島嶼隔離制を採る方效果多からんとの說學者獄吏間に有力なれば早晩實行さるべしと(同上)

▲**基督敎五十年祭**　基督敎各派を代表する內外委員は昨五日より十日迄神田青年會舘に於て宣敎五十年祭を擧行せり

▲**北海道の經營案**　同案は既に大體、內務兩省の協議を了へ目下引續き詳細の交涉中なれば四五日中に全く完了し近々決定を見るに至るべし(同上)

北京電報

▲**攝政王の御慰問**　淸國の元勳張之洞氏の病急なるや攝政王殿下は痛く御軫念あらせられ直に親ら張氏邸に枉させられ親く御慰問遊されたり(五日夜)

▲**張之洞氏の長逝**　張之洞氏は攝政王の御慰問に對し眷顧の厚きに感泣し後事を委囑して昨日午後九時眠るが如く長逝り(同上)

▲**淸國の鐵道計畫**　松花江より綏遠に至る八百淸里の鐵道は二千萬兩を以て宣統二年にして竣工せしむるに決せり(六日)

▲**張之洞氏の後任**　張之洞後任は徐世昌ならんと推察せらる(六日)

▲**露國と獨逸新聞**　哈爾賓鐵道附近に於ける宗主權行政權等に關する露國の態度に就き伯林の新聞紙は十分なる說明を要求せり(六日東京經由)

▲**獨逸太子の飛行**　獨逸皇太子殿下はライト氏と共に氏の飛行器にて飛行を試みらたり(同上)

ルーター電報

▲**西班牙軍の大敗**　西班牙軍はメリナに於て大敗し非常の損害を被りイカルス將軍は負傷し西軍は更に一万五千の援兵を送りたり(六日東京經由)

▲**西ム兩軍の激戰**　去る土曜日に於ける西班牙及ムーアー兩軍の會戰は非常に劇烈を極め西軍は四十名の死者と二百九十名の傷者を出だし尙は前進せる西軍に對し五千のムーアー人は激烈に攻擊を試み居れり(同上)

倫敦電報

▲**土國へ賠償要求**　アダナ騷動に對しドクフリイミナクより土爾其に向ひ損害賠償を要求せり(六日東京經由)

浦鹽電報

▲**露國と無線通信**　露國は本國と勘察加半島との間に無線電信を開設せんとし工事中なるが今秋中には完成すべしと(同上)

紐育電報

▲**兩殿下の御出發**　久邇宮及同妃殿下は大平洋岸に向ひ紐育を御發程相成りたり(六日東京經由)

奉天電報

▲**購地問題の進捗**　奉天にて交涉中なる滿鐵購地局細目章程は日淸委員の意見大体纏まり安奉沿線の土地收用を開始したるが結氷期に近きたるを以て工事進捗と共に買收を併行し居り(六日)

伯林電報

▲**露國の造艦計劃**　露國は首相議長の下に特別委員會を開き海軍參謀本部の立案せる造艦計畫を附議したり

雜報

●**水道問題の善後策**　大韓水道會社の橫暴は殆んど言語に絕し其行爲は正さに人道の公敵として苟くも寬假す可からざる緊要問題なり而して斯かる問題を姑息の間に葬り去る時は患を將來に貽すを以て當局者に於ても充分愼重に考究し已むを得ずんば特別に水道を敷設するも敢へて辭せざるの決心なりと且つ水道の如きは彼の瓦斯電氣の類と異なり生活上寸時も缺ぐ可からざる必需品なるに該社の如き不德會社に對し此至要特權を與へ置く時は漢城衞生の發達改良は永遠に之を望み得べからず故に該社の反省すると否とに拘はらず根本的に善後の方法を講ずべく準備中なりと當局者は語れり

●**伊藤公爵卒倒は虛報**　統監御用紙京城日報が無根の流說を傳へて統監の詰責を食ひ大岡社長が平蜘蛛の如くなりて謝罪し事濟みとなれる事は從來其例に乏しからざる由なるが本日の御用紙は又しても虛報を傳へたり即ち本日の同紙は二號活字を以て伊藤公が五日卒倒されたる旨を報導したるが統監府にては事容易ならずとて直に古谷秘書官に打電し容体を問合せたるに去月廿九日桂首相邸に往訪中眩暈されたる事あるも數分間にして回復され其後は極めて壯健にて些の異狀なく殊に五日に卒倒されたりとの說は無根の揑造に過ぎずとの返電ありたりと(電報通信)

●**東亞煙草會社開始期**　同會社の元五十一聯隊跡の工事も窩家屋改造は既に八九分通り迄で進捗し尙は機關部に屬する建築工事も追々着手の筈にて來月中には是亦た竣成の運に到るべく扨て製造着手は各工事落成の上一旦試製し其上にて本式製造着手の手筈にて目下各社員は日々殆ど日暮迄の詰切りにて各工事及び施設準備の監督に鞅掌されつゝありとの事なれば多分本年內に本製造着手の運に到るならん

●**韓國各皇族の歲費別**　韓國の各皇族が皇室費百五十萬圓の內より支給を受くる歲費を擧れば左の如し

一順和宮(憲宗大王妃)	年額金	三千九百圓
一義和宮(義親王)	同	三万圓
一完平君(李昇應)	同	一萬二千圓
一完興君(李載冕)	同	一萬二千圓
一完準君(李載完)	同	一萬二千圓
一義陽君(李載覺)	同	六千圓
一昌山君(李海昌)	同	六千圓
一永宣君(李俊鎔)	同	六千圓
一海豐府院君(尹澤榮)	同	一萬二千圓
一慶興府夫人(同夫人)	同	六千圓
一錦陵尉(朴泳孝)	同	一萬圓
一宣昌府夫人(故閔台鎬夫人)	同	六千圓
一大院王(故李是應)	同	一千三百八十圓

●**香椎宮ご高麗碑建設**　神功皇后の靈を奉祭せる香椎宮は先年貴衆兩院の協贊に依り國庫補助金を得て宮殿の新築を爲したる官幣大社なるが今回同社附近に高麗古碑を建設して神功皇后の御偉勳を表彰する目的を以て豫算金八万圓の經費は之れを世間一般の篤志家より募集する爲め奈良四郞及び松谷克治の二氏は目下入京中なり

●**龍山議員の增員決定**　龍山民團設立同時即ち四十年九月には同地の人口三千五百に過ぎざりしも現今の調査に依れば七千五百に達し從來の十二名の民團議員にては完全に此人口を代表する能はざるを理事廳にても認めたるを以て愈十六名に增加するに決し數日中に理事廳布達を以て發表さるべし

●**大久保司令官の旅程**　韓國軍司令官は去る四日西韓視察の途に就きしが昨日は平壤滯在今七日出發安東縣に向ひ同地に一泊し八日義州白馬を經更に平壤を經九日鎭南浦に向ひ十一日歸任の途に就かるゝ豫定なりと云ふ

●**九月中の穀物賣買高**　仁川市場に於ける九月中の穀物賣買高を聞くに左の如し

類別	價格	類別	價格
籾	一、六六一、八〇五	大麥	五、〇〇〇
玄米	四三〇、三〇六	小麥	一〇、二六九、三三七
大豆	三三七、六三〇	合計	一三、六九四、一四二

●**木浦港民大會の開催**　木浦港在留民は十八區長發企となり三南鐵道期成問題に關し去る三日劇場壽座に木浦民大會を開き三南鐵道急設の決議を爲し其筋に急歎請願書を提起することに決せり

●**京城會議所の臨時會**　京城商業會議所にては六日午後臨時總會を開き京元線問題と第八次聯合會の件に就き議する所ありたり

●**山林協會の測量計畫**　山林協會にては山林荒蕪地の測量をなさんとし其費用二十萬圓の借款を起さん計畫中

●**農銀ご地方費の取扱**　地方費の取扱は農工銀行に於て爲すべき筈にて內部及度支部は目下協議中なりと

●**敍任辭令**　左の通り辭令ありたり

補原州區裁判所判事(八級)　山中綠
補楊禾區裁判所判事(同上)　蓬川恒男
補載寧區裁判所判事(同上)　小出俊雄
補義城區裁判所判事(同上)　中村隆省
補金城區裁判所判事(同上)　千綿惣內
補江界區裁判所判事(同上)　蓬萊敦太郞
補錦山區裁判所判事(同上)　細田左代吉
補安城區裁判所判事(同上)　岡崎隆
補鏡城區裁判所判事(五級)　安田繁太郞
補水原區裁判所判事(同上)　大宅伊敏
補京城區裁判所判事(七級)　原正鼎
公州地方裁判所判事
兼補恩津區裁判所判事　栗原鐐太郞
公州地方裁判所判事
兼補公州區裁判所判事　竹尾義麿

●**水道會社の狼狽**　大韓水道會社は三浦理事官より四十年八月二十四日附承認取消の通告に接し非常に狼狽を極めたるもの〻如く厚顏にも一昨五日午後同社支配人バーハム氏は理事廳に三浦理事官を來訪し種々哀願ケ間敷事を述べ立てたるも同理事官は既に一たび交涉斷絕し現に沒人道の行爲を敢へてしつゝある以上徒らに應接するも何等益なく且つ是に關係せる一件書類は全部一括して統監府へ廻送しあれば同府へ往訪すべしと敎へ還せし由

●**小學校の運動會**　仁川民團立小學校にては虎疫も終熄するに至りたれば來る廿三日觀測所下廣地に於て例年の通り秋季大運動會を開催する由なるが娛樂機關に乏しき同港民は一年中の行樂日と見做し寧ろ子供より大人の運動會の如き奇觀を呈する年來の例なれば定めし盛觀を極むるならん

●**二文士の招待會**　目下入京中なる夏目漱石及び澁川柳次郞兩氏の招待會は一昨五日午後七時より花月樓に於て開會したるが來會者三十餘名にして宴開くるや大岡力氏の歡迎辭に續て夏目氏の答辭あり主客歡を盡して散會したるは午後十一時頃なりき

●**各學校の開期始**　一時惡疫猖獗の爲め京城各學校は何れも閉鎖し居たりしも昨今漸く終熄に近きしに就き本日學部本田書記官は防疫本部に臨み今後の防疫繼續等に就き協議打合せの上愈々來る八日頃より何れも授業開始の運びに到るならんと云ふ

●**京元線ご仁龍間**　三南線よりも京元線を先づ布設せざるべからずとの主旨にて仁川龍山等に於ても昨六日午後七時より相談會を開き種々協議する所ありたりと

●**面の配合實行期**　內部に於ては面の配合に就いて目下調査中なるが近々各道を通じて之れを實行する筈なりと云へり

●**時事編輯長來期**　時事新報編輯長新井由太郞氏は北淸及滿洲各地の視察を了へ目下安東縣滯在中なるが本日同地出發出迎の爲め出張せる當地特派員橫尾信一郞氏と同伴途中一泊して八日入京し三日間滯在の後京釜沿線を視察し歸東する豫定なりと

●**三島支配人東上**　韓國銀行理事に內定せる現一銀副支配人三島太郞氏は過般來一銀より韓國銀行へ引繼ぐべき財產の調査中なりし諸般の引繼準備終りたるを以て事務打合せの爲め八日朝南大門發東上する由

●**生徒の登校解禁**　仁川民團立小學校にては虎疫流行の爲め韓人部落より通校の生徒に限り特に登校を禁止し居りたるが虎疫全く終熄したれば昨日より通校を差許せり

●**榊原少將水原行**　榊原憲兵隊長は山形京城分隊長と同伴して水原憲兵分遣所檢閱の爲め出張せしが夕刻直ちに歸京したりと

●**中村大尉の出張**　軍司令部中村砲兵大尉は全羅道討伐狀況視察の爲め五日龍山を出發釜山を經て木浦に上陸し榮山浦に向ふ

●**山林協會ご借款**　山林協會は山林荒蕪地測量の爲廿萬圓の借款を起さん計畫あり

●**久水理事官歸任**　滯京中なりし久水元山理事官は昨六日朝出發歸任せりと云ふ

近事片々

▲伊藤公卒倒の報傳はる事實なら其後の經過氣遣はる日本の名物男希は回復を祈る
▲公は腦貧血にて時々卒倒さるゝ事ありとの事なれば或は直に回復せられしものか
▲京元湖南兩線同時に敷設するを望む貧金の都合付かずば余に財源案有と統監語る
▲果して統監が斯く聲言せられしとならば甚だ心强し希くは何人も兩線同時を望む
▲後藤男亦殖民政策に熱心の人[illegible]院も統監の說を容れて兩線同時の敷設を決せよ
▲日韓合併の說は愈々例の三派有士の首唱により國論を鼓吹せんとは果して事實か
▲兎に角一家和合は最も望ましき事之れ日韓兩國の爲に慶すべき事須く奮勵せよや
▲平安道沿岸の漁場東拓の手に落ち淸漁追捕の勵行をなすに於ては淸國は抗議せんと
▲果して之が事實ならば眞に困った者僞かの事淸國の不快を買ふは些と面白からず
▲平安道朔州方面鴨綠江に沿へる地方は一帶に砂金出づ其採取高思ひの外に多しと
▲韓國のコロンダイクと言囃す由來韓國砂金に富む果して夥多の產出あらば大富源
▲鍋島外務部長のメキシコ公使說は事實なるが如し屢々噂立ちて漸く事實となるか
▲夏目澁川兩氏の歡迎會席上例の大岡力君無根の電報云々御用的の厭味を言へりと
▲氣障は渠の特色今更に咎むるも少々野暮かされど其氣障加減は唾棄に價ひせんか
▲京城發電が事實相違の廉あるの有無に就ては殊更に其席上にて言ふの必要あるか
▲大岡君の厭味に就て漱石君が眞面目に辨解を試みられしとか茲に於て力君忸怩か
▲淸國の柱石たる張中堂の死は惜むべし茲に於て滿漢の平衡に袁氏の出現を要せむ
▲袁氏の出現は急速に望む可らざるも到底北京政府は彼を起用するの必要を見んか
▲張之洞は淸の元勳なれども素と是溫厚の人唯夫れ滿漢均衡の調和に効勞ありし乎
▲渡米實業團米國歡待至らざるなし瀛軍の料理皆ロハ一人前六千圓宛の御馳走也と

●**鏡城の共濟組合組織**　咸北の書記官中井喜太郎氏よりの報告に依
員を贈與する等會員相互の共濟を目的とす
るものなるが地方に於ける財團として模範

會に請願する爲め商業會議所書記長設演及
大谷の兩氏を運動委員として上京せしむる

國是遊說團事務所に於ては本月三日南部明
禮坊東洞朴宮內六十二號七戸に移轉せり

……は京城に於ては共濟組合なるもの組織……を示す等なりと……組合員の貯金を奬勵すると同時に組合員に金員を貸付け又は必要の場合に於ては金……

●京元鐵道の急設運動 元山居留民は京元鐵道の急速布設を今期議……にて……出したる旨京城日本人商業會議所に電報し來れり

●遊說團事務所の移轉

●傳道師布哇派遣 米國北長老會は布哇在留韓人布教の爲め傳道師尹成愈、洪完植の二名を不日派遣する筈なりと云ふ

●助役と女出札掛

……とか怎やら臭ひぞ……

又しても若き男女の艶物語こそ出でたれ茲に統監府鐵道廳は南大門驛に奉職する助役にかに假の名を星好董之丞（二十八）となん呼べる日給腰辨殿あり這の腰辨殿元來高等自然主義者にしてこれまで妻を娶ること幾人なるを知らず何時も妻君の方から三下り半を請られて離縁話のもちあがるが常なりとは此男なかゝの好色漢と見えたり

これも同驛に出札掛りを勤めて毎日龍山鐵道官舍より通勤する花村愛子とて花も二八か二九からぬ當世紫式部あり馬琴式ならねど容貌の美しさは更にも言はず色飽くまで白く下膨れの憎さならぬ愛嬌ありて就中彼女の綠なす黒髪と黒目勝ちなる眸は一瞥人を魅する力ありて現にも角にも當世自然派の要求條件の總てを具備して居るので同驛勤務の有象無象はいで中原の鹿は我手にこそと恰かも竹取物語の五人の皇子に於ける如く相爭つて見たが肝腎要の愛子姫が案に相違して高く止つて一瞥だに與れぬのに忽ち疑心は暗鬼を産み野心滿々たる一人が近頃誤熱心にも此間の消息を看破せずんば巳へ身は虎伏す韓山に骨を埋むとも止まずとて妙な所に力瘤を入れて流行の北極探險以上に偵察して見れば道はそも如何にと且つ驚き且つ羨望したるも道理こそあれ愛子姫には夫れより蠱に星董黨の首領たる董之丞に垣間ならぬ障子越しに見染められてから矢も楯もたまらばこそ董之丞は遂ひその四五日前の徹夜明けの休日午後七時頃滿艦飾をなして南大門の官舍を竊かに拔け出で龍山なる愛子孃の居宅を窺ひ折から家人の入浴のため外出して人なきを幸ひ巧に愛子孃を軍司令部裏漢江の邊なる人家離れし所に連れ出し例の色魔の口吻を以て說大層の似而非戀愛熱を吹き靄重たげに惱める桔梗花女郎花を踏み躙り吾々二人は想思の例はは結ぶの神の許を受けて春花秋月の歡樂の極みなき現在の境遇ではありませぬ歟それは自分には郷里には妻はありますけれども一時家庭の事情上餘儀なくされたので諦は愛のなき結婚ですから極月にもなれば休暇を利用して歸鄕の上奇麗薩張りと離縁しますから其時こそは貴孃と天下晴れて理想の家庭を造るのを僕は今から樂んで待つて居ますなどゝ口から出任せの色魔の本領を極度に發揮して蜜の如き甘き接吻に愛子は初めて男の肉に醉ふて昨今は兩人共列車發着の時間を窃みては秋波を送り目に物言はせて想思怨中毒の第三期に入りたるが親切なる同僚は望之丞の一身上に就て面白からぬ風聞を數次耳にしたから斷然斯かる醜關係は絕ち給へ殊に來る十二月の昇給にも影響するからとて非常に友情を盡してゐるけれども望之丞は對岸の火災視馬耳東風で此處までも今丹次郎を氣取りて可厭に脂下つて居るとはイヤハヤ

●持逃店員の豪遊

▲藝妓を伴れて芝居見物

原籍兵庫縣氷上郡吉見村 當時住所不定の足立一（二十五）と云ふは過る三十六年神戸にて窃盜犯に依り二ケ月の重禁錮に處刑されしを幕明けに其後三十七年丹後にて同罪に依り一年の處刑を受け引續き三十九年神戸にて同じく二年の處分を受けたる前科數犯の曲者なるが又しても滿期服役後惡心を起し昨年十一月大阪東區北濱四丁目醬油商上園七兵衛方にて奉公中手提金庫（現金數十圓金指環及び公債證書四枚在中）を窃取して同店を飛出し中尾偵次と僞名し本年七月廿日滿洲丸に便乘して仁川に來り直に入京し曙町一丁目土井受負師方に奉公する事となりたるが眞面目に立働きたるは當座のみにして忽ち例の地金を現はし先月廿九日同店雇人鈴木銀次郎の不在中同人が汗水を流して蓄へたる二百二十圓の銀行預金通帳をば窃取し翌日百三十銀行より現金を取出して身繕ひをなし同夜は龍山の井筒に紀文大盡を氣取り翌日即ち本月一日仁川に下りて金村旅館に宿泊せしも取扱振りの惡かりしに立腹して同家を立出で旭屋旅館に京都材木商今井信次郎と云ふ振れ込みにて投宿したるも同夜は寺町一丁目の飲食店筑後亭に一泊し翌日も流連しつゝ金錢を湯水の如く費消し翌三日は同町三ケ月亭に登樓して散財を爲し夕方より同亭藝妓三吉事津村てる（二十）同酌婦大淺るい（二十）の兩名を連れて歌舞伎座に至り愛澤劇を見物中折よくも仁川署三刑事は觀劇の爲め同座にあり右男の擧動不審なるより直に本署に引致して取調べたるに右の顛末を殘らず自白せしかば直に檢事局に廻はさる

●仁川檢菌所閉鎖 仁川檢菌所は曩に門司港にペスト猖獗を極めし際同港と最も密接の關係を有する仁川に若しや鼠菌の侵入し居らざるやを確かむる爲め内部衛生局監督の下に設置せられたるものなるが其後檢菌せし鼠の數三千數百疋に足したりと雖も無菌鼠のみなりしかば昨日限り同所を閉鎖せりと云ふ

●仁川虎疫愈根絕 仁川韓人部落の虎疫は防疫の功現はれ全滅の域に達したる由は既報の如くなるが目下水踰洞傳染病者收容所に在る該患者は只だ二名を除すのみなれども之れとて經過良好にして不日全治退院すべければ一先づさしもに猖獗を極めし虎疫も全く根絕したるものと見て差支なし

●東幕地方の虎疫 仁川署にては管内に屬する東幕地方に傳染病患者蔓延の兆あるにぞ昨日檢疫委員一名及巡査二名を急派したりと云ふ

●吉彌のドロン 仁川鱗樓の義太夫藝妓として有名なる吉彌は一昨夜如何なる仔細のありてにやドロンとも云はず消へ失せて行衛不明となりたるにぞ鱗の大入道は血眼になつて搜索中なりと

●怪しき男の拘引 一昨日午前十時頃京城本町四丁目を風体怪しき韓人の通行せんとするを折柄炯眼なる南部署長野刑事が他の搜索用にて通り懸り其儘本署に引致して嚴重取調べたる所同人は自稱金德源と申立てしも懷中に鋭利なる尺餘の日本刀を所持せるに依り或は意外なる犯罪あるやも知れずとて田部警部主任となり目下引續訊問中

●色餓鬼と消費高 一昨日の新町遊廓の登樓客は總計八十六人にして消費額三百七十八圓六十八錢とは氣の毒なり

●花柳界だより 元當地井門本店でオーライ藝妓として有名なりし千太郎と開業匆々ドロンを極めんとして仕損ねたる玉奴の二拍子は仁川淺間に住み替へ前者は勝利後者は桝子と名乘りて現はれたるが、これは先きの勝利や桝子が殊の外流行妓なりしが爲めなりと云ふも藝と云はず容貌と云はず先代の十分一の價値もないとは一般の噂である▲二拍子と引替へに井門へは芳町と云へるが淺間から仕替へて來た、まだ營業始めぬ樣だが存外掘出物との評判だ▲一寸匿れたる處ゆへ知らぬ人が多いが南山町二丁目に淸水と云ふ置屋がある藝妓は極樂政彌一奴外一名で何れも却々振つて居るそうだ

吉凶鏡

本町五丁目 三一館判斷

十月七日舊八月廿三日六白赤口庚子たいら△一白 利益快心の事あり多少の危險的行動も成効す△二黒 平運の日旅行金談等凶紛爭談判は讓歩して結局するに利あり△三碧 離間中絕爭論を愼むべし精算決算上に間違起り易し△四綠 盜害横領詐欺防ぐべし不意の散財事あり伐木治金には吉△五黄 業務官職上に疎虞懈怠より失錯敗衂あり△六白 受任委托等を引受くるなかれ總じて厄運なれば万事謹愼を要す△七赤 中傷誣妄に羅らん紛爭喧嘩を戒しむ△八白 胸中の鬱積せる不平不服を口外に漏らし破れを生ずることあり△九紫 近親の身上につき損失配慮の事あり治金探礦には吉

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し

平民文庫

▲水道會社に對する汚濁水供給損害賠償の請求を私の所で提出しました諸君も揃つて提出し玉ゑ（綠生）▲誰れが何んと云つても流石に花月のれふくは獣々と捏ねる丈けあつて甘い所がある琵琶藝者の艶子は聊か氣障だ噂にするのには僕なら芳川家の介嬢の方にする（小僧）▲僕は京城に來てモウ五年になるが藝者の一人も知らんので朋蕩の話對手が出來ないので困ります夫れならと云つて僅かな手當を貰つて居て藝者を聘んで馴染譯にも行かず何うしたらよからう（商店員）▲詰らぬ事を心配したものだ知らぬ方が却つて足下の爲めにして而して更らに雇主及び居留地の爲めだ心配しなさんな（係）▲信仰の人の忠言承り候小生は往年淺間山へ登り候處前方に更に雄大なる山あるを發見いたし目下其麓に在るものに御座候（はの字）▲はの字君對信仰の人の紛爭は初め信仰の人の誤解に起り今やはの字君の反感を買ふて哲理の交換が冷笑の應答と化し相である兩者の反省を煩はしたい（小僧）▲千里眼君は一寸出ては長く休まれる樣だ（石井潤人）▲中庸君に申し上候過日端書にて差上候俳句中「妻去りし人の秋や秋の風」は「妻去りし人と連れ立つ夜や寒き」と訂し申候、と申す程の問題にもあらざるべく候呵々（むら）▲人格の鍛錬なる書を見る其一頁に大隈伯の談話として「大に食ひ大に働き大に怒りて大に笑ふは是れ實に日本少年として望ましき事なり」と書き順る此言を賞揚してあつた其れはよいが其書には憤怒を戒め節制を訓ゆるの語が續々書かれてあるのだから面白い此種の矛盾は深く咎むに足らぬが世上多くの識者が徒に消極な堪忍や節制を說いて憤怒や不節制も亦頗る要用なるを知りつゝ之を教へぬは活社會に於ける大なる缺點たらずや敢て諸賢に問ふ（はの字）▲統監府鐵道局龍山發電所の當局技士及び職工和泉の事は朝鮮日日新聞に一度出たが其後とても相變らず○○○閣柄長官閣下技士と申せば高等官故少しく現象を見充分に注意を願たき（無名氏）▲チツとも判らぬ（係）▲龍山鐵道官舍では近頃賭け事が盛んで職工なぞは給料を貰つた時なぞは徹夜だデ請願查公などは馴染になつて居るので駄目だとの風說ありとの投書（係）▲手數の掛つた投書ですな（小僧）

●天氣豫報（自五日午後六時至六日午後六時）

北西風晴

三日（華氏） 最高溫度 六九、八 最低溫度 五四、〇

各種 洗濯石鹼 專門製造販賣

用途一陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髮、諸工業用

朝日石鹼製造所

京城旭町二丁目 (電話九七三番)

▲無料紹介欄▼

人事部

●募集 敏腕なる外交員至急雇入たし 京城旭町三 京城廣告社

●小僧入用 京城大漢門前 遠藤洋服店

●被雇たし 染織學校卒業商業に經驗あり商店を望む 京城美洞三十統十一戸 藤岡廣吉

●女中入用 三十才前後の婦人にして裁縫の心得ある人を求む 旭町一 旭町競賣所

●募集 敏腕なる外交員至急入用希望者は直接京城本六滑稽新聞社へ來談あれ

●求職 年四十五確實なる身元保證人あり如何なる事務をも厭はず 姓名在社(四五五)

●少年入用 十七八才少年入用 大和町一丁目 爲春堂醫院

●被雇度 病院、醫局員として被雇たし斯道に經驗あり 氏名在社(四四八)

●告ケー生 紙上の匿名は可なるも絶對の匿名にては不可少くとも本社へは本名を明かさすては掲載せざるは本欄の内規也(係)

物件部

●電話至急買受たし 氏名在社(四四三)

本町赤門を起點として五間を距らぬ上等韓人建家土地共一坪五圓内外に買却す望の人來宅あれ 永樂座横 本田

●電話讓渡したし 氏名在社(四四五)

●貸家 若草町一丁目にて官吏會社員向き貸家二軒あり 若草町一ノ二九 矢島

廣告

味の素

一味の素 和洋料理は勿論一般の家庭料として日常欠く可らざるもので鰹節や昆布の様な色々面倒な手數も入らず誰れにでも即座に用ひ得らるゝ調法及經濟的調味品であります

定價一瓶 四十五錢 三十錢

他地方は引換小包にて送ります

韓國特約店 京城 辻屋 電話二四八番

消毒防臭劑

クレシン

京城本町二丁目

四ケ所洋物店

電話三二一番

三一館

焦心罔志多年爲斯道難於微義奥旨恍然似有得者匪盬推臆斷啾啾茫洋辭意涸腦素面輕薄也

京城本町五丁目

易斷鑑 相教授 土御門派大陰陽師 館主

表装 一切襖 製作販賣

原料を精撰し技術審美的にして價格亦頗る廉價なるは弊堂の特色!!

京城明治町二丁目

古香堂主 山本平治

開校

女生徒募集

明治町三丁目 シンガーミシン裁縫女學校

▲科目▼

ミシン裁縫 ミシン刺繍 造花

來る十月十一日より授業開始す志望者は九日迄に申込まる可し

規則書入用の方は 西小門内 シンガー裁縫機械會社へ

日韓印刷株式會社

營業科目

活版、石版、銅版 各種印刷 帳簿裝釘、書籍 製本及ビ印刷 諸材料販賣

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候

本社 京城明治町三丁目 電話三二二番

出張所 東京麹町區麹町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

處方調劑の依頼に應ず

京城南大門通三丁目

新井藥房本店

藥劑師 小松禎三

瑞西タバン時計會社韓國代理販賣店

米國ウォルサム時計 米國アンソニヤ時計 韓國特約販賣店

獨逸國スカンジヤ自轉車特約販賣店

時計卸商 仁川本町三丁目 喜多金光堂本店 電話七五〇番

時計卸小賣 京城本町二丁目 喜多金光堂支店 電話千十五番

京城ホテル

京城南山町三丁目(元日本人倶樂部跡)

電話 一二三番 長電話 四九二番

冬物新柄各種

英佛獨米諸國へ注文中の冬新柄物各種輸入仕候

京城本町

龜屋

電話(二十七番 四七五番)

明治卅七年七月創立

東京海上運送保險株式會社

資本金一千萬圓

京城代辦店 本町四丁目 日吳服店 電話九番

事務所 京城本町二ノ三 電話一〇六〇番

京城光化門通

淺田洋服店

店主 大島專藏

(電話四百十三番)

胃腸消化新劑

澱粉消化 ヂヤスタリン

錠劑十日分(三十粒入一瓶)二十錢 散劑一オンス入(一瓶)一圓二十錢

蛋白脂肪消化 ヂゲスチン

錠劑十日分(三十瓶入一瓶)三十錢 散錠一オンス入(一瓶)一圓四十錢

右は最近内地に於て急激の需用を來たしたる名聲嘖々たる世界無比の理想的絶品にして所謂賣藥には無之候 各地有名なる藥店に於て販賣す

●大韓醫院御用藥

韓國一手賣捌元 京城光化門通 大島專藏

廣告

暖爐各種

煙突取付並ニ煙突掃除大勉强

京城本町五丁目角一番戸 電四七一番 馬木勇吉

龍山山下町兵器廠官舍道入口 電三六四番 馬木支店

概略營業品目

和洋帳簿諸紙類 文房具學校用品類 巻紙封筒手帳類 帽子洋傘附屬品類 洋服附屬品類 メリヤス類 一ック鞄 毛布膝掛馬車掛 石鹼香水齒磨類 タオル、ハンカチフ 手袋沓下袋物類

正札 一 引なし

宮衙、陸軍銀行、會社 御用達

京城本町四丁目

池田長兵衛

和洋雜貨卸小賣商

電話二百〇六番

●京城市内の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候●

●地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候●

特約販賣自製

大上商店

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

和洋酒、(〇)精酎、穀物類、鑵詰、乾物、荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候

(電話二五一番)

洋食 生そば

うなぎ丼 うなぎ蒲燒 天ぷら 辨當折詰類

今回生そば相始め一層勉强致し候間多少と遠近とに不拘續々御用命之程願上候

南大門驛構内 電話六八七番

エーテー

株式會社 第一銀行韓國總支店

電話番號

長第一一一番 國庫部、發行部、營業課、當直用

第三三一番 國庫部、發行部、營業課用

第六一一番 支配人、調査部、文書課用

第三二二番 臨時建築部用

本店 東京市日本橋區兜町

内地 大阪、兵庫支店 京都、伏見出張所 大阪西區、東京新大阪町、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關

韓國 仁川、大邱支店 釜山、開城出張所 元山、城津、鎭南浦、咸興、木浦、馬山、群山、鏡城、平壤

清國 安東縣出張所

右の外内外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

日本郵船株式會社

瀛船仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 電話三九番 郡回漕店

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 十月二十四日午後三時

●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 十月十四日正午

●大連、大沽、牛莊行 山口丸 十月十二日午前四時

●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 月 日正午時出

●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 立神丸 十月 日午後出

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

待春日

●消閑之清遊●

毎日午後開會諸君子陸續御臨を賜へ

京城明治町一丁目

京城碁會

(大和過劑〇万隣)

市中之仙境

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十錢▲三ヶ月前金…

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢▲…

發行兼編輯人 高木久馬

印刷人 神久一郎

發行所 京城 京城新報社 電話六六二